

関西エアポート、関西国際空港に 日本初となる「スマートセキュリティ」システムを導入

関西エアポートは本日、関西国際空港のLCC専用の第2ターミナルビル（国際線）に日本初となる「スマートセキュリティ」システムを導入することをお知らせします。「スマートセキュリティ」は国際航空運送協会（IATA）および国際空港協議会（ACI）により開発されており、欧州、米国、オーストラリアの様々な最先端の空港で使用されています。

「スマートセキュリティ」の導入により、お客様はこれまでより素早く、簡単にセキュリティ検査を終えることができ、空港での自由時間を多くとることができます。航空会社にとってもお客様からの満足度を高めるだけでなく、航空機の出発の遅れを減らすこともできます。政府当局はテロ等の脅威への対応を強化し、リスクの高い場所に人員を集中させることができ、また技術革新を強化することができます。また、関西エアポートも今まで以上に空港運営を効率化できます。

「スマートセキュリティ」の導入は、リスクを考慮したセキュリティ人員・資源配置を可能にし、また空港設備の最適配置により利便性を最大限高めることができます。この新しいシステムの導入により、お客様の待ち時間は従来より3分の1短縮されます。

スマートレーン

スマートレーンの導入により、トレーの移動を自動化し、お客様と空港の従業員がトレーを動かす手間を省くことで、手荷物検査を早めます。お客様はスマートレーンで手荷物検査をし、ボディスキャナーおよび金属探知ゲートによる身体検査を受けることとなります。

さらに、従来の日本の空港のレーンの長さは7メートルであるのに対し、スマートレーンは17メートルあります。このことで、同時に複数の人々がレーンを使用でき、さらに上着等の着脱をするスペースが広がるため、待ち時間を短縮することができます。

搭乗券の確認はお客様がセキュリティレーンに向かう前に行われ、セキュリティチェックと並行して行う必要がないように工夫されています。

セキュリティレーンは1時間に300人のお客様に対応でき、現在の180人よりも大幅に増加します。

ボディスキャナー

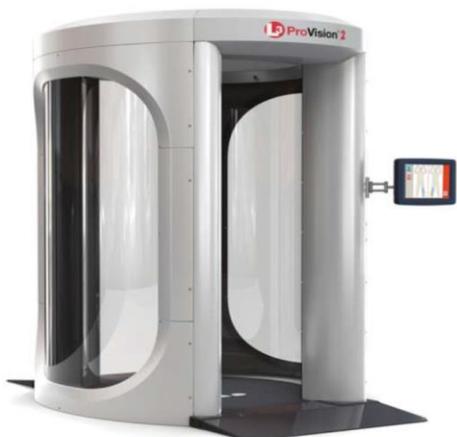
現在、空港でのお客様および手荷物におけるセキュリティチェックでは、金属探知ゲートをくぐり、必要に応じて手でのボディチェックをすることに主眼を置いています。ボディスキャナーは金属探査ゲート等で追加の検査が必要と判断されたお客様に対して、手でのボディチェックよりも、少ないストレスで素早く検査することができるため、お客様の負担を軽減します。

インライン処理による荷物のセキュリティチェック

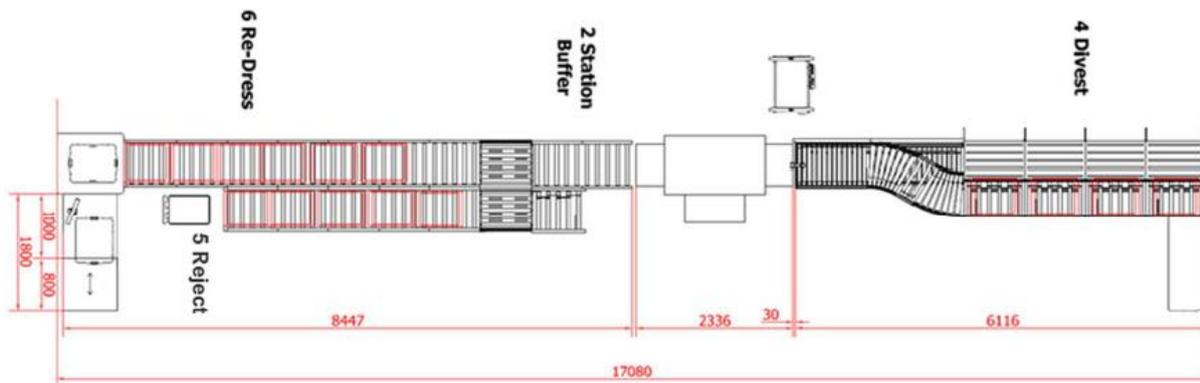
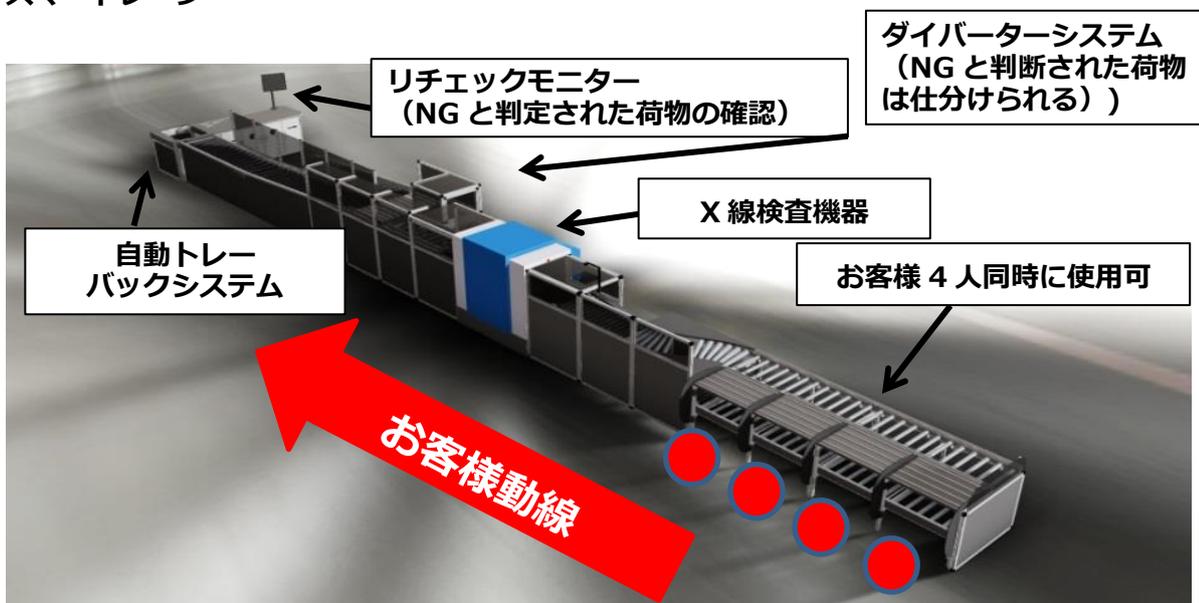
チェックインする手荷物のセキュリティチェックはインライン処理で行われます。現在のシステムでは、お客様は自らX線検査装置のあるところまで荷物を運び、その後改めて航空機まで荷物を送るという2段階のプロセスがあります。

しかし、コンベヤーベルトシステムでは、はじめに手荷物の中身をX線装置で検査し、航空機に荷物を積み込みますので、お客様の手間を省くことができます。

ボディスキャナー:



スマートレーン



【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
コーポレートコミュニケーション部 広報グループ
Tel : 072-455-2201

関西エアポート株式会社 について

関西エアポート株式会社は、関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITM）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しました。関西エアポートは、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。

関西エアポートは、両空港の安全とセキュリティを常に最優先しつつ、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、両空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへ貢献することを目標としています。

関西エアポートは、2015年12月15日付けで新関西国際空港株式会社との間で、事業期間を44年とする「関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約」（実施契約）を締結しています。

会社名

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	資本金	250億円
代表者	代表取締役社長 山谷 佳之 代表取締役副社長 エマヌエル・ムノント	設立年月日	2015年12月1日
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等	株主	オリックス 40%、ヴァンシ・エアポート 40%、その他の出資者 20% (*1)



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界36カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。

2014年に50周年を迎え、これからも経営戦略である「金融+サービス」の加速化、「アジア等新興国の成長を取り込む」を推進し、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を目指すと同時に、社会に貢献してまいります。



ヴァンシ・エアポートは、フランスで12、ポルトガルで10（リスボンのハブ空港を含む）、カンボジアで3、日本で2、ドミニカで6、そしてチリで1空港の合計34空港の開発および運営を行うグローバル企業です。

ヴァンシ・エアポートが運営する空港ネットワークの2015年の年間利用者数は1億人にのぼり、140社を超える航空会社が就航しています。2015年のヴァンシ・エアポートの年間売上高は8億2000万ユーロ(*2)を記録しています。

ヴァンシ・エアポートは、深い知見と、プロフェッショナルリズムあふれる世界各国の8,500名のスタッフの力を合わせ、その投資力や国際ネットワーク、既存空港のインフラ運営最適化、施設の拡充、新規建設における専門性を生かし、空港の開発、資金調達、建設、および運営を行っています。詳細につきましては、www.vinci-airports.comをご覧ください。

(*1) その他の出資者

株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェイティービー、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

(*2) 日本、チリ、ドミニカ共和国の各空港のデータを含まず。